

馬興国先生を悼む

山 口 建 治（神奈川大学名誉教授）

馬先生に初めてお会いしたのは、かれこれ三〇年前になるであろうか。国交回復後の日中交流がようやく本格化したところ、神奈川大学でも中国の研究者を招いて学術交流が行われるようになった。その走りのころ、先生が神奈川大学を訪問され、歓迎の小宴でお目にかかった記憶がある。その後はとくに個人的な交流はなかったが、先生が特別招聘教授として赴任されてから、さまざまな会議の席上でお目にかかるようになった。また、数年前には、私のピンチヒッターとして、半年間、「日中比較文化」の授業をお願いしたこともあった。

最近では、今年の三月、神奈川大学の国際交流センターが大連の数大学の学生を招いて学生交流を行った際に、やはり小宴の席上でお会いした。今から考えると、それが最後になった。その時、先生はすでに病魔に襲われていたのだろうが、いつものように快活にふるまわれていた。

先生と私とは同年の生まれなのに、私が数か月ばかり早く生まれているからと、私を先輩あつかいされるので、

恐縮したものだ。同じ年の先生が早くも旅立たれたのは、ひとしお残念でならない。中日交流の深化拡大に尽力された先生の御遺志を受け継ぎ、日中間の民間交流と相互理解のために微力を尽くすことをお誓いし、哀悼のことばとします。ご冥福をお祈り申し上げます。